

那覇空港へのご意見、募集しています(9月30日まで)

那覇空港の総合的な調査・PIステップ2

りっかPIさな！(さあ、PIしましょう！)～空港から見える沖縄の未来～

那覇空港調査連絡調整会議



2. 那覇空港の総合的な調査

那覇空港は将来、需要が逼迫することが予想されるので、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、国土交通省大阪航空局の三者で「那覇空港調査連絡調整会議」を発足し、『那覇空港の総合的な調査』を行っています。

「那覇空港の総合的な調査」ではPI(パブリック・インボリューションメント)という手法により、

1. 現在の那覇空港

現在の那覇空港には、延長3000mの滑走路が1本あり、この滑走路で年間11・5万回(自衛隊機等含む)の航空機が発着しています。これは、全国で5番目の回数を誇り、滑走路1本の空港としては全国で2番目となります。

また、国内線旅客は観光客を中心に年々増加しており、2005年には約1320万人の方が那覇空港を利用しています。しかし、夏場のピーク時には希望便の予約が取れないなどの影響が出ています。

3. PIステップ2と意見募集

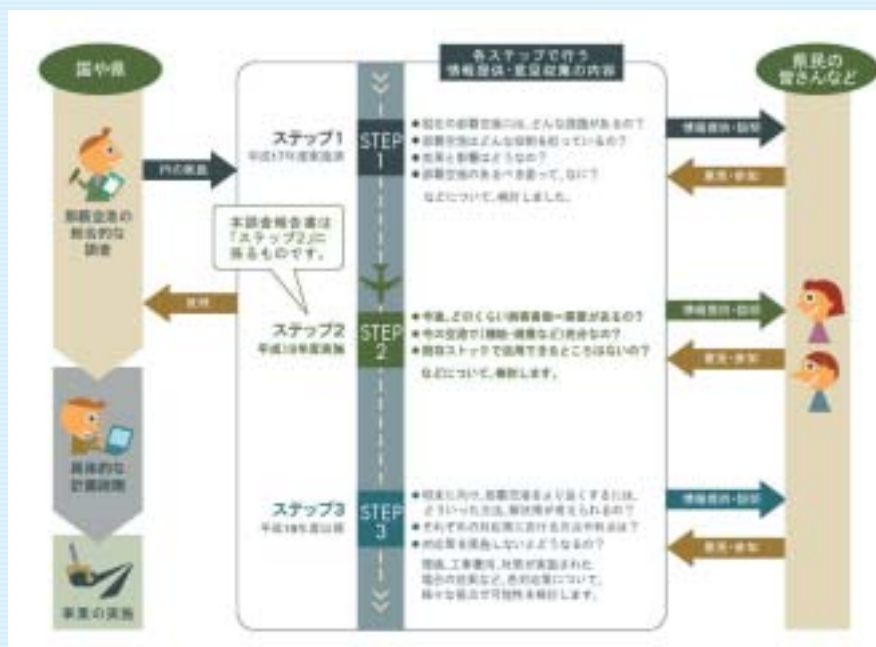
県民等の方から貴重な意見を頂きながら調査を進めています。

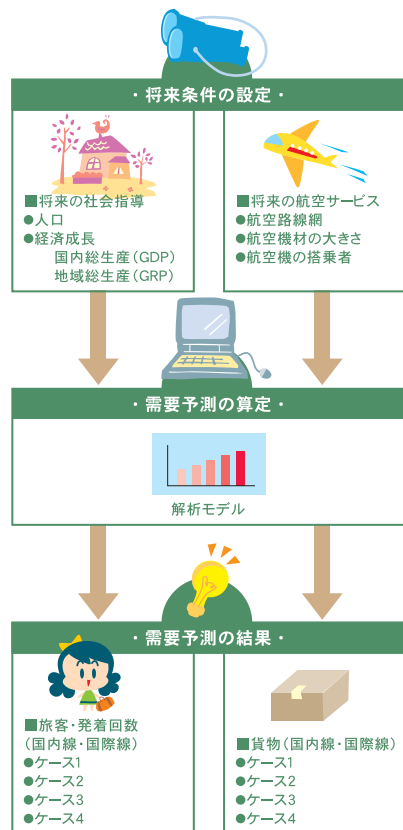
那覇空港のPIは3つのステップに分かれており、昨年に引き続き、今年の8月1日よりステップ2として「現在の那覇空港で将来の需要に対応できるの

か」等の検討内容を公表しています。検討結果は『那覇空港の調査報告書2』としてとりまとめ、皆様へ配布しています。ぜひご覧ください。また、検討結果に対する皆様のご意見を募集しています。

皆様の貴重なご意見が、将来の那覇空港整備に反映されます。たくさんのご意見、お待ちしております。

各ステップで行う情報提供・意見収集の内容





那覇空港の調査報告書2では、主に「現在の那覇空港で、将来の需要に対応できるのか？」等について取りまとめています。

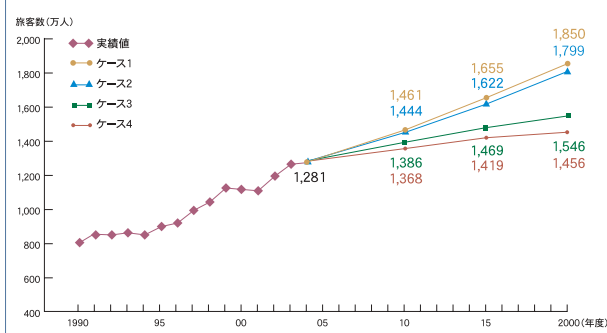
1) 那覇空港における将来の需要

那覇空港の需要予測を行いました。需要予測は、将来想定される社会指標や航空サービスを解析モデルに入力して求めます。将来の社会指標や航空サービスについては、様々な状態が想定されます。それらを組み合わせ、ケース1～4までの4つのケースについて将来予測を行いました。

4. 那覇空港の調査報告書2

ケース区分	将来の人口		将来の経済成長		将来の航空路線網	
	全 国	沖 縄	全国GDP	沖縄GDP	国内線	国際線
ケース1	高位ケース	高位ケース		沖縄振興ケース	現状路線 + 百里、静岡	現状維持
ケース2	中位ケース	中位ケース	経済進展ケース		現状維持	
ケース3	低位ケース	低位ケース	経済停滞ケース			現状維持
ケース4			リスクケース			

航空旅客数 (国内線+国際線)



2004年度で1,281万人だった旅客数が、2020年度では1,456～1,850万人と予測されます。

2004年 1,281万人

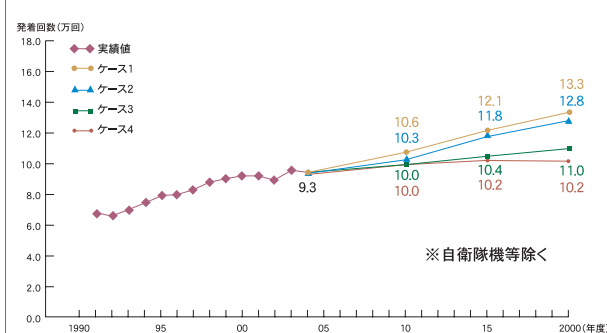


旅客数

2020年 1,456～1,850万人

国内線と国際線を併せた航空旅客数及び民間航空機発着回数の予測結果は以下のとおりとなりました。

発着回数 (国内線+国際線)



2004年度で9.3万回だった発着回数は、2020年度では10.2～13.3万回と予測されます。

2004年 9.3万回

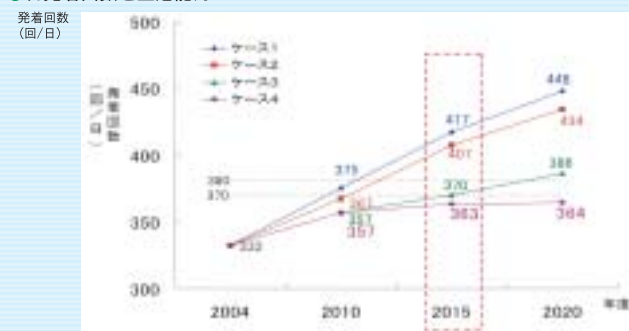


発着回数

2020年 10.2万回～13.3万回



●日発着回数と空港能力

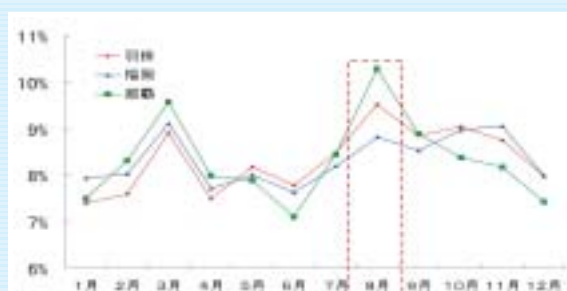


2) 那覇空港の能力見極め
現在の滑走路1本で、1日当たり航空機が那覇空港に発着できる回数は370～380回と想定されます。

将来の日発着回数は、需要予測で求めた年間発着回数から算出します。しかし、那覇空港は民間航空機以外に自衛隊や海上保安庁などの航空機も利用しているため、算出した値に自衛隊機等の平均的な1日あたりの発着回数を加えました。

2015年度では、ケース1、2で1日あたり370～380回を超えるとの結果がえられました。

●月別旅客割合(2004年)



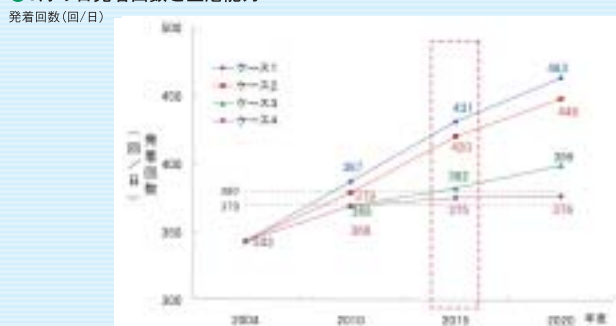
また、那覇空港は他の空港と比較して8月の旅客が多くなっています。

沖縄県の経済が観光産業に依存していることや沖縄に来訪する旅行者の9割以上が航空機を利用することを考慮すると、夏場の沖縄観光に適切に対応することが沖縄県経済にとって重要です。

夏季のピーク月である8月は旅客が多いため臨時便等が発着します。よって航空機の発着回数が他の月に比べて多くなります。

8月では、2015年度に全ケースで1日当たり370～380

●8月の日発着回数と空港能力



回に達するもしくは上回る結果が得られました。

3) 座席利用率と県経済損失額の見通し

那覇空港では2015年度以降、夏季を中心に増加する旅客に対して現滑走路1本では航空機の増便が困難になります。そうすると航空機1機に出来る限り多くの旅客を乗せることになり、座席利用率が高くなります。また、座席利用率が高いほど予約が取りづらくなります。

2015年度の夏季ピークでは座席利用率が80～95%に達し、

予約の取りにくさの目安		ほとんどの便で比較的容易に予約ができる	予約がとれないという利用者の反応が出る	ニーズの高い時間帯はほぼ満席の便	全便で予約を取ることが困難	全便でほぼ満席。空港へ行けば空席待ちで時々席が取れる
月平均座席利用率(%)		～70%	70%～	80%～	85%～	90%～
現 状	2004年	約65%	約75%			
	2010年	約65%		約80%～85%		
将 来	2015年	約55%～75%			約80%～95%	
	2020年			約65%～85%		約85%～100%超
		年平均				
		夏季ピーク(8月)平均				

現在よりも更に予約が取りづらくなると予想されます。
2015年度以降、予約が取れないために沖縄訪問が出来ない人の数が19、43万人になり、県経済の年間損失額は220億円、490億円になると試算されます。

4. 今後の方策

那覇空港は、2010、2015年度には夏季を中心に航空旅客需要の増加に対応できなくなる恐れがあることがわかりました。今後、那覇空港の総合的な調査で、既存施設の有効活用や「滑走路増設を含む抜本的な空港能力向上」について検討を行い、次年度以降にP1ステップ3として皆様へ提示する予定です。

5. 報告書の配布

P1ステップ2の詳細な内容をまとめた「那覇空港の調査報告書2」は以下により配布しております。また、インターネットでも配信しております。ぜひご覧ください。



「那覇空港の調査報告書2」

沖縄総合事務局 沖縄県交通政策課 那覇空港 モノレール各駅
県行政情報センターにて配布

<http://www.dc.ogb.jp.kyoku/information/nahakyoku/index.htm>

6. ご意見・アンケート・お問い合わせ先

報告書の中にアンケート用紙が入っていますので皆様の貴重なご意見・アンケートをお寄せください。9月30日までの間、お待ちしております。

ご意見・お問い合わせ先

あて先

内閣府沖縄総合事務局 開発建設部
港湾空港建設課 空港係

郵 送

〒900-8530
沖縄県那覇市前島2-21-7

FAX

098-860-1000

Eメール

mai-kuukou@ogb.cao.go.jp